

スクミリンゴガイの卵塊を見つけよう

食用に持ち込まれた南米原産の淡水巻貝、スクミリンゴガイ（通称“ジャンボタニシ”）が、千葉県内の九十九里地域を中心に分布を拡大し、農業被害を引き起こしています。本種は環境省の生態系被害防止外来種リストにおいて重点対策外来種に選定されており、早期に対策が必要な種とされています。今号では、スクミリンゴガイの特徴、農業への影響、探し方や県内での侵入状況等について紹介します。写真左上は撮影者の団員番号です。

スクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata*

重点対策外来種



5cm程度に成長する淡水巻貝です。姿形のよく似た在来種がいるため、見慣れていないと区別は難しいですが、ピンク色の特徴的な卵塊を産むため、容易にその存在に気付くことができます。



日本に生息する在来のタニシ類（例えば、ヒメタニシ、マルタニシ）よりも螺塔（らとう、貝殻上部のこと）が低く、ずんぐりした見た目をしています。姿形のよく似た在来種を誤って駆除しないよう、貝殻をよく観察したり、ピンク色の卵塊を確認するようにしてください。卵塊は用水路の壁面や稲に産み付けられることが多いです。生き物報告へ報告される際は、貝殻の上部もしくは卵塊が確認できる写真をお送りください。



田植え直後の稲の苗を食害し、収量を減少させてしまいます。また、稲は産卵場所として利用されます。卵塊には毒が含まれていることから、卵を食べる生物はいないとされています。

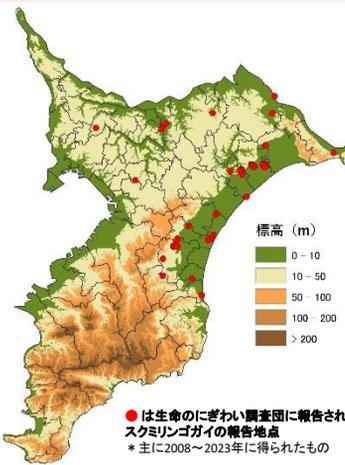
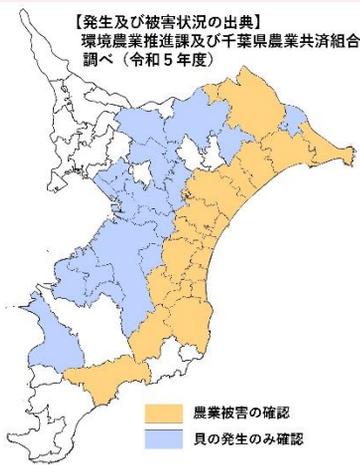


図. スクミリンゴガイの報告地点と標高との関連(左)と市町村別の被害状況(右)



もし、水田や水路でスクミリンゴガイの成貝や卵塊を見かけた際は、是非ともご報告ください。団員の皆さんと一丸となって、千葉県内で分布拡大中のスクミリンゴガイの侵入最前線を明らかにしていきましょう！

千葉県内でスクミリンゴガイが発見された地点（図中の●）を整理し、地図化しました。図より、九十九里平野を中心に県北部の低地に広く分布しており（図左）、県南部の一部地域にも既に侵入している（図右）ことがわかります。現在、県東部を中心に農業被害が発生しており、今後は貝の発生が確認されている多くの地域でも農業被害が生じる恐れがあります。

更なる分布拡大や農業被害発生のあることから、定着地における防除対策に加え、侵入初期地域においても迅速な防除対策を実施することが望まれます。侵入最前線を把握するためには、スクミリンゴガイの侵入を早期に捉える数多くの目が必要です。そのため、生命のにぎわい調査団員の皆様からのご報告をお願いいたします。

千葉県内には、スクミリンゴガイと形態がよく似た在来種（マルタニシ等）が生息しているため、スクミリンゴガイの侵入状況を見誤る恐れがあります。しかし、ピンク色の特徴的な卵塊を産むことから、繁殖期となるこの時期はスクミリンゴガイの侵入にいち早く気付く絶好の機会です。生き物観察のついでに、本種の卵塊も探してみてもいいかもしれません。

古典文学と里山の生き物たちの世界



第二十四回 モズ

Lanius bucephalus モズ科



詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生き物たちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生き物とかかわり、その姿に何をしていたのでしょうか。この連載では、生物多様性センターに勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

モズというのは肉食鳥で、いろんな小動物を襲います。木の枝などに獲物を突き刺して「はやにえ」をつくる習性はよく知られるところ。^{かぎがた}鉤型の嘴と^{せいけん}いい精悍な顔と^{もうきん}いい猛禽めいていて、実際、分類学の父と称される18世紀スウェーデンの博物学者、カール・フォン・リンネは、モズをタカやハヤブサなどと一緒の目^{もく}に分類していました。現在では、モズはスズメ目に属しており、また、タカ目とハヤブサ目は似ているだけでかなり違う仲間だということが明らかになっております。

モズをタカみたいなものだと考えたのは昔の日本人も同じでした。鎌倉時代の歴史書^{あづま}「吾妻鏡」には、信濃国（現在の長野県）の住人・桜井五郎という武士に関する記述があります。

この桜井五郎は、鷹狩りの名人でした。しかも、三代将軍源実朝^{みなもとのさねとも}に向かって本人が言うには、なんとタカだけでなくモズをタカのように使って狩りをさせることができるというのです。いまひとつ信用できない実朝でしたが、五郎は翌日、本当にモズを持って出直してきて、実朝の面前で見事、モズを用いてスズメを捕ってみせ、ご褒美の刀をもらっています。桜井五郎に関して「吾妻鏡」に載っているのはこれだけですから、彼はこの一件をもって後世に名を遺したことになります。



画 齋藤倫瑠

タカの代わりにモズで鷹狩りをしようとした人は歴史上、他にもいました。徳川家康がそうです。家康は少年時代、今川義元のもとで人質生活を送っていました。その頃、モズを飼っており、側近の鳥居元忠に、「モズをタカみたく腕にとまらせよ」と命じ、ところがうまくいかなかったので、怒って元忠を縁側から突き落としたというエピソードが、鳥居家の記録である「鳥居家譜」^{とりいかぶ}に書き残されています。21世紀の基準ではパワハラとしか言いようがありませんが、忍耐の人・家康にも若い頃にはそのような一面があったのです。

元忠はその後も一生、家康に忠実に従い続けました。関ヶ原の戦いでは伏見城に籠城し^{ふしみじょうろうじょう}、数で圧倒的に上回る西軍を10日以上も足止めした末に玉砕しています。元忠の奮戦がなかったら、家康は石田三成に勝てず、江戸幕府は誕生しなかったかもしれません。元忠は、モズを慣らせなかった代りに、武将として生き、名を遺したのです。

<これからの季節に観察できる生きもの>

- 調査対象種: ヒガシニホントカゲ、カワセミ、キジ、サワガニ、モリアオガエルなど
 - 調査対象種以外
 - * 渡りのヒタキ類、サシバなどの猛禽類
 - * 各種昆虫、両生類、爬虫類など
 - * 希少生物（生息地・生息数が減少している生物）、外来生物の報告も受け付けています。
- 調査対象種以外は種の確認が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

「生命のにぎわい調査団 現地研修会」のご案内 夏の谷津田で生き物観察しよう！

千葉県の下総台地には「谷津」と呼ばれる小さな谷が入り組んでおり、谷津の湧水などを水源とした水田は「谷津田」と呼ばれます。今回は、現在でも谷津田が残されている椿 TC 里山バンクにおいて、夏の谷津田で暮らす動植物を観察し、谷津田の魅力や現況について研修します。

- 開催日（**荒天中止**）
令和6年7月6日（土） 9時～11時（予定）
- 定員：40名（申込者多数の場合は抽選）
- 対象：小学生以上（小学生以下が参加する場合は保護者同伴）
- 申込締切：令和6年6月21日（金）必着（メール、郵送またはFAX）
- 詳細は申込案内書をご覧ください。